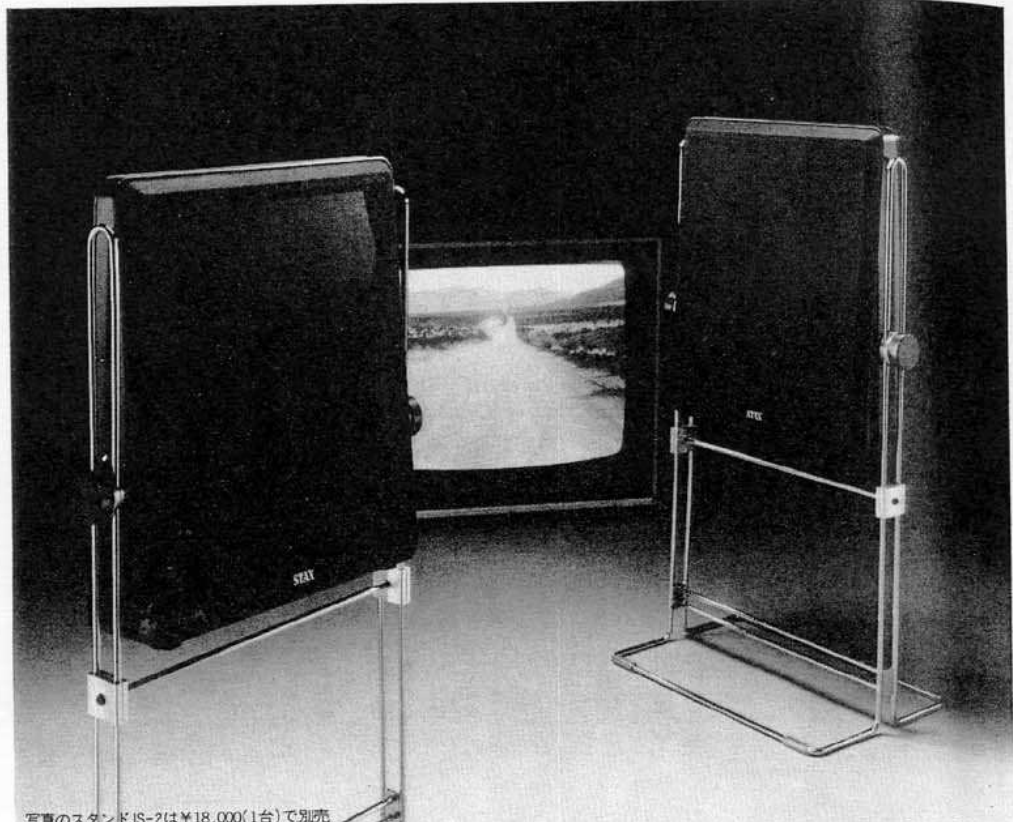




小型、軽量、薄型のコンデンサースピーカー。インテリア感
覚でセッティングも思いのまま。AVシステムにぴったりだ



写真のスタンドJS-2は¥18,000(1台)で別売

「コンデンサースピーカーは大型かつ高価で、AC電源が必要」というこれまでの概念を打破して、小型、軽量、安価、しかもAC電源が不要で一般のスピーカーと同様に扱えるという、セルフバイアス方式のEST A4uが出現して以来、コンデンサー型は一躍身近な存在となった。セルフバイアス方式というのは、AC電源の代りに入力信号の一部を利用し、これを昇圧/整流して、数千VのDCバイアス電圧を作る方式。バイアスとして高い電圧は必要であるものの、電流は、微小な絶縁体のリーク電流のみなので、エネルギー自体はひじょうに微々たるもので済むという点に着目して考案された方式である。

本機は、このEST A4uの発展型で、全面的にグレードアップが図られている。まず一番大きな違いは、発音ユニットの振動膜と固定電極間のギャップを1.7倍に広げたことだ。これにより振動膜の振幅がより一層大きくとれ、最大出力音圧が3dBアップし、定格入力は20Wから60Wに、瞬間最大入力も100Wから150Wにパワーアップされた。なお、ギャップを広げただけではエネルギーが低下するので、これを補うために、バイアス電圧は、従来の2000Vから3500Vにアップされている。

また、外部バイアス端子が設けられたので、オプションのACアダプターを接続すれば、固定バイアス方式にも変更できる。キャビネットは、ラワン合板からFアイバーボードに材質が変更され、バツフル板は2倍の厚みに強化されている。しかもバツフル形状は、回折による音波の干渉を軽減するため、発音ユニット取付け部から周辺に向かってテーパが付けられ、前室効果と呼ばれる空洞共振を防ぐため、ユニット取り付け穴にもテーパが施された。

内部の電子回路部も、無酸素銅線材や通常の2倍厚の銅箔を使ったガラスエポキシ基板の採用など、グレードアップが図られている。サラネットは、音響透過性のより優れた素材に変更されたが、カラーが黒一色となってしまうのは少し残念だ。新たに加わった機能としては、レスポンスセクターがある。これで、フラットレスポンス/広指向性と、ハイ上がり/狭指向性という二種類の特性が選べるので、聴く部屋の条件や音楽ジャンルに応じて、好みのサウンドが選択できる。

このスピーカーは、小型、軽量、薄型のためセッティングが自由で、床置き、他、机の上、壁面、天井など、場所を選ばない。また、磁石を使っていないので、テレビのすぐ近くに置いてもお画質を損なう心配がなく、AVシステム用のスピーカーにはうってつけだ。専用スタンドを用いて本機を二段重ねにすれば、大型コンデンサースピーカー並みの大迫力も楽しめる。(SR)

スピーカーシステム

STAX スタックス ESTA4u extra ¥176,000(ペア)

●型式：セルフバイアス方式コンデンサー型 ●インピーダンス：8Ω ●許容入力：60W ●出力音圧レベル：78dB/W/m ●寸法/重量：W400×H450×D105mm/5.8kg